

「普通」から教えてもらったこと

長久手市立長久手中学校

三年 岩崎 飛向

「普通って何だろう」

私はある人の会話から、こんなことを考えるようになりました。それは、母です。

私の母は発達障害があります。身体に支障はないのですが、生まれつき脳の機能が他の人と違うせいで、コミュニケーションが上手にとれなかったり、相手と違った解釈をしてしまうことがあります。そのため、母の悩みごとを聞かたびに、私が普通だと思っていたことが、母にとっての普通ではないことが多くありました。そうした経験から、普通とは何なのかを次第に考えるようになりました。

私は母からよく悩み事を相談されます。その度に、「めんどくさいな」とか「嫌だな」と思ったことは、一度もありません。むしろ、今までになかった新たな視点や発見があるの、毎回興味深く話を聞いています。そんなある日、母はいつものように私に悩みを言っ

てきました。それは、友達とアップルパイを作ることになった話です。母はりんごの買い出しを善意で引き受け、大量の青りんごを買ってきました。すると、友達はとても残念そうな顔をし、こんなことを言いました。

「普通は赤いりんごに決まっているでしょ」と。母は、自分だけ別のものを思い描いていた事にショックを受けたと言います。私はこの話を聞いたとき、とても驚きました。理由は2つあります。

一つ目は、母が青りんごを買ってきたことです。私は「りんごを買ってきて」と言われたら、無意識に赤いりんごを買うと思います。だから「どうして赤ではなく、青りんごなのか」その理由を母に尋ねたところ、

「わからない、青いりんごが浮かんだから。」と、当たり前かのように言ってきました。このとき私は全てが繋がったかのように、ふとこんなことを思いました。「普通は人それぞれ違う」ということです。もしも同じように「どうして赤りんごなのか」と聞かれたら、私もわかりません。母はきっとそれと同じよ

うな感覚だったのではないかと思います。つまり、母の想像したりんごは、私にとって違いりんごだった。すなわち、「誰かにとっての普通は、誰かの普通ではない」ということに気付くことができました。

二つ目は「普通は赤いりんごに決まってるでしょ」と言った友達のセリフです。今の話をふまえると、母にとつての普通は青りんごだったことがわかりました。では、なぜ友達がこのようにことを言ったのでしょうか。それは、自分と同じものを思い描いていたと勘違いしたからではないでしょうか。母は、このような勘違いのせいで今回だけでなく、不快な思いをすることがよくあります。私もそうです。誰かに決めつけられたり、否定されたりすると、とても心が傷つきます。しかし、よく考えてみてください。人にはそれぞれ感性があつて、感情があつて、考え方が異なります。それは、その人自身にしかわからないものです。「普通」という二文字を聞くと、なんだか大勢の人を想像しがちですが、実はその人自身の感じ方でしかないのかもしれない

せん。

私は今回「普通とは何なのか」について気付くことができました。これは紛れもなく母のおかげです。もっと言えば、私に悩みを伝えてくれたからこそ考えることができました。

母は障害者です。これは事実ですが、私が一番知ってほしいことはそこではありません。

一人にはそれぞれ個性があるということとを理解する「これが何よりも大切なことだと私は思います。このことは全ての人が共通して理解すべき内容です。普段何気なく使っている「普通」という言葉一つでも、相手を傷つけてしまうかもしれません。私はそうやって、小さなことでも感じたことを周りに伝えていこうと思います。そして、いろいろな人と一緒に考えを深め合いたいです。その先によりよい未来があると信じて・・・。